



新明倫

鍛英親
鍊知愛

高鍋西中学校
学校だより
平成30年3月8日

♪ もうすぐ春ですわね ♪

「春は 名のみの 風の寒さや」(早春賦そうしゆんふ)

「ツクシの子が はずかしげに 顔を出します」(春一番)

今年もあっという間に3月になり、6日は「啓蟄」(けいちつ)でした。「冬ごもりから目覚めた生き物が、穴を開けて顔を出すころ」という意味で、暦の上ではもう春です。先日、自宅近くの山から鶯(うぐいす)の初鳴きが聞こえました。農道の脇では、もう土筆(つくし)が生え(右写真)、すみれの花も咲いていました。



そんな季節の中、6・7日(火・水)には県立学校の一般入試が行われ、西中からも3年生56名が受検して自分の力を出し切りました。それぞれの「志望校合格」という喜びの「15の春」を迎えてほしいとみんなで願っています。

「競い合う」→「高め合う」→「友情」「尊敬」

今年の2月は韓国で「ピョンチャンオリンピック」(平昌)が開催され、日本は過去最多の13個のメダルを獲得するなど、各競技で感動の場面が見られました。

多くの選手が印象に残る活躍をしましたが、その内の一人が女子スピードスケート競技の小平 奈緒(こだいら なお)選手です。彼女は日本の主将という大役のプレッシャーの中、1000mで銀メダル、500mで金メダルを獲得しました。特に500mでは、強敵の韓国：イ・サンファ選手に勝利した見事な優勝でした。



実はこの二人は、10年近く前から互いに競い、支え合ってきたよきライバルでした。イ・サンファ選手は過去2大会のオリンピックで連続の金メダルを獲得しており、地元韓国の人たちからも3連覇の大きな期待をかけられていました。一方の小平選手はこれまで2大会とも個人でのメダル獲得はありませんでした。しかし今大会の500mレースでは、36秒94のオリンピック新記録を出しての感動的な優勝(小平選手：金メダル、イ・サンファ選手：銀メダル)でした。互いに努力し「競い合って」「高め合った」結果が今回のオリンピックでした。

「競い合えることが幸せ」と小平選手は言っています。今大会の自分の500mレース直後は、彼女はあえて小さく控えめなガッツポーズ。また、新記録を出してわき上がる観客席に向かって、右手人差し指を自分の口にあて「シーイッ」(静かにしてください)の仕草(しぐさ)をしました。どちらの行動も、次の組で走るイ・サンファ選手のことを考えてのことでした。二人はこれまで競い合い、高め合いながら「友情」を育み、互いを「尊敬する」素晴らしい関係を築いてきました。スピードスケート競技のライバル争いを通して、努力や思いやり、感謝の心など、素晴らしい人間性も育み、人として大きく成長してきました。

500mレース終了後には小平選手からイ・サンファ選手に駆け寄り、韓国語で「チャレツソ」(よくやったね)と声をかけ、二人が涙しながら抱き合う姿はとても印象的でした。また、互いの国旗を持って二人で観客に応えながらウィングランをする姿は多くの人に感動を与えました。ちなみに小平選手は、マスコミから今の自分を三つの言葉で表現してくださいとお願いされて、「情熱」「真摯」「求道者」と言っています。

このようなライバルと「競い合う」「高め合う」関係は、学習やスポーツ、文化活動など私たちの学校生活には今あるでしょうか？ 自分自身や集団の成長のためにも、学年や学級の中で「目標とする友だち」や「競い合う仲間」をぜひつくってほしいと思います。特に高校入試や部活動の大会、各種コンクールなどは、高鍋西中以外の生徒とも競い合っていかなければなりません。

まず「他校と競う前に、日々の学校生活から」。4月から次の学年に進級する1・2年生は、今そしてこれからの雰囲気づくりがとても大切です。残り少ない今の学年生活を有意義に過ごし、次の学年や希望する進路に向かって、みんなで目標をもって互いに高め合う雰囲気づくりを、まず自分の学年・学級から始め、西中全体につくり、みんなで共に成長していきましょう。

「親愛・英知・鍛錬」(高鍋西中の教育目標です。)